

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス「くれよん」		
○保護者評価実施期間	令和6年8月1日		～ 令和6年8月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18人(17家族)	(回答者数) 17人
○従業者評価実施期間	令和6年8月1日		～ 令和6年8月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数) 5人
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年10月11日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童の特性に合わせた対応と情報提供の工夫	児童が目で確認し、スケジュール等を理解し、スムーズに行動しやすいよう、好きなキャラクターを使用した絵カード、色を分ける、活動時の制作手順表での指示等を行い、個々に合わせた視覚情報の提供や工夫をしています。また、個室やパーテーション等での環境調整や、児童個々の能力や特性に配慮したグループに分け、小集団での活動を提供しています。	放課後等デイサービスガイドラインに示されている5領域の視点を意識しながら、児童個々に合わせた視覚支援の整備や対応、活動の充実を目指します。
2	子ども同士の関わりを通して、育ち合いの場がもてるような支援の実施	選択活動を設定し、「自分がやりたい活動」「誰と一緒に行いたいか」を選べるようにしています。それぞれの意見が合わない時、対応が困難な場合もありますが、自分で考えて決めることができるよう職員が間に入り支援しています。	引き続き意思決定支援の学びを深めます。適切な場面設定や配慮を行うことで、あそびや活動とおして、他者の気持ちの理解や、関わり方、場に応じた行動等ができるように支援します。仲間づくりができるような支援を心掛けます。
3	自己肯定感を育むプログラムの設定	役割を持つことで、意欲的に活動できるように個々に応じた役割を分担しています。(調理時の道具洗い、あさつ当番等) また、お弁当を作ってくれる保護者様への感謝の気持ちを育むため、お弁当箱洗いも習慣化しています。新たに取り入れたサンキューワーク(奉仕活動)では、書類運びや草取り、窓拭き等を行い、感謝される喜びや成功体験を重ねることで、自己肯定感を育むことができるように支援しています。サンキューワークは「する」「しない」も自分で決めています。	現在は、身近な人から喜ばれる経験を大事に積み重ねていながら、ゆくゆくは地域交流も含め、社会経験の幅も広げながらサンキューワークを実施出来ればと思っています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	法制度やとりまく環境の変化に伴う知識が十分ではない。	今年度の報酬改定により、新たな取り組みが必要となりました。これまで 知り得た知識に加え、日々変化する福祉情勢について情報収集を行い、その理解と知識の習得が必要になっています。具体的内容の理解や記録方法などもまだ理解が不十分な面があります。	新たな知識の習得のため、事業所会議等で内容の読み合わせや学習を計画的に行います。職員が制度を理解したうえで一定水準のサービス提供が行えるよう取り組んでいきたいと思っています。
2	ご家族に対する、家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)や家族等が参加できる研修会や情報提供の機会等が十分ではない。	家族への相談対応は行っていますが、専門的なペアレントトレーニングを実施できる職員がいないため、事業所単位での実践は難しい状況です。また、研修は一日では修了が難しく、数日間の実施となると、事業所での実施は難しい状況です。	引き続き保護者様の相談に対応しながら、職員も関係機関等に対する知識を深め、場合によっては他の窓口につなげる等の対応をできればと思います。また、外部の研修会等の情報収集を積極的に行っていながら、保護者様に情報の発信を継続します。